生誕100年

第17回 秋山庄太郎「花」写真コンテスト NEWS

― グランプリ・特選・準特選 ―

「写真芸術の振興」と「福祉支援」を理念とする本コンテストは、約3000作品ものご応募をいただきました。
グランプリ・特選10点は、秋山庄太郎撮影作品とともに、災害で被災された施設や福祉団体などに寄贈されます。

秋山 庄太郎（あきやま・しょうたろう）

1920-2003

昭和・平成を代表する数多くの女優ポートレートを撮影。「美しきをより美しく」、「アマチュア畏るべし」を信条とし、写真芸術としての「花」をライフワークとする。紫綬褒章・旭日小綬章受章。2002 年、本コンテスト創始。

グランプリ（秋山庄太郎賞）

「清楚」當麻 勝正（東京都）

入賞作品展 入場無料

会　　期：2021年3月2日（火）～3月18日（木）
会　　場：「カメラのキタムラ　新宿 北村写真機店」（東京都新宿区新宿 3-26-14）
　　6Fイベントスペース（Space Lucida）
時　　間：「新宿 北村写真機店」営業時間内（10：00～22：00）
　　※最終日は 14：00 まで（予定）
展示作品：グランプリ・特選・準特選 計 50 作品

※会場の「新宿 北村写真機店」では、換気・消毒をはじめ新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた取り組みを行なっています。ご来場様には、マスクの着用、館内設置のアルコール消毒液による手指消毒、混雑時の入場制限、体調がすぐれない場合のご来場の自粛、ソーシャルディスタンスへのご協力等をお願いしております。何卒ご了承の程お願い致します。

※新型コロナウイルス感染症の流行状況等により、会期・開場時間等を変更する場合があります。最新の情報は秋山庄太郎写真芸術館ホームページ（http://akiyama-shotaro.com）をご覧ください。

審査委員会総評

代表委員
丹地 敏明「心に響くすてきな花写真に感動しました。」

すばらしい花の写真をたくさん拝見することができ、とても感動しました。応募された皆さんのほとんどが、もちろん努力して撮っておられることは確かですけれど、たのしんで撮っておられる様子までもが伝わってきます。上位に入られた 10 作品からグランプリ（秋山庄太郎賞）が選ばれるのですが、その 10 作品を選ぶのも大変に時間がかかり、審査委員全員が悩みに悩んでのことだったといっていいと思います。それだけ今回の応募作品はいい意味で審査を苦しめたところがありました。グランプリに輝いた『清楚』は、被写体に一体感があって、きちっと撮られているすばらしい作品です。写真は「シンプル・イズ・ベスト」と言われることがありますが、その通りの作品に仕上がっていると思います。僕も、「花が好き」、「写真が好き」の人間で、心に響いたものは撮りたくなってしまうのですが、今回はそんな気持ちを皆さんと共有できたような気がしています。

たんじ・としあき（写真家）　写真愛好家育成をはじめ写真界の発展に長年尽力。日本写真家協会・日本写真協会会員、日本風景写真協会名誉会員。

特選

「情熱のグロリオサ」
石原 道子（北海道）

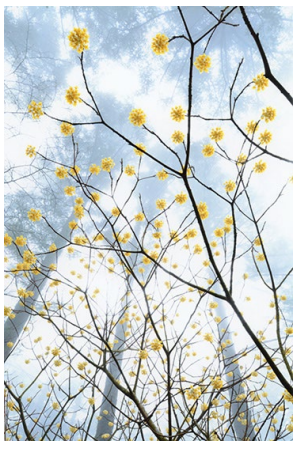
「ツルアジサイ咲く頃」
橋島 美保子（北海道）

「願い」
浅野 良（福島県）
（秋山庄太郎生誕 100 年審査委員特別賞）

「控えめに」
山下 巧（東京都）

「艶花（あでやか）」
石倉 盛夫（新潟県）

「情景」
松下 恭代（静岡県）



「霧林に咲く」
山口 芳明（静岡県）

「森の妖精」
佐藤 正亘（愛知県）

「親愛」
林 正祥（大阪府）

審査委員寸評

中村 由利子「皆で共有したい、花が醸し出す幸福感」

この特別な状況のなか、皆さんが撮影された花たちがいつにも増して輝いて見えました。花たちの持つさまざまな表情を見事に捉え、そこから醸し出される幸福感を、今こそ皆で共有したいという気持ちが伝わってくるような作品もたくさんありました。グランプリの『清楚』は不安な心に優しく「大丈夫」と語りかけてくれるかのようですし、審査委員特別賞の『願い』は静寂な美のなかに、希望を持って生きていくことの大切さをも思わせてくれます。心に響く作品の数々、審査することの難しさをこんなに感じた回はありません。

なかむら・ゆりこ（作曲家・ピアニスト）　秋山庄太郎存命中から秋山の花映像作品に楽曲を提供。長年、写真愛好家としても撮り続けている。

坂井田 富三「鮮やかさや美しさの表現方法をたのしく選んで」

室内撮影が例年より多く、ライティングなどの工夫も印象に残りました。世相の反映かもしれませんが、全体として少しアンダーめの暗い感じの作品が少なくありませんでした。花という被写体はあまりくすみ過ぎると、鑑賞させていただく側が期待している、鮮やかさや美しさが隠れて、もったいないなあ、という気持ちを抱かせることがあるように思います。プリント用紙もいろいろなものがあり、表現方法もどんどん増えていますから、花にあったものを選ぶのも作品づくりの一つの方法です。たのしく選んですてきな作品に仕上げてください。

さかいだ・とみぞう（写真家）　キタムラ勤務時代から撮影会などを担当。日本写真家協会・日本風景写真家協会会員。現在、フリーランスで活躍中。

舘 弘美「花の魅力の新発見を」

落ち着かないご時世のなか、皆様が撮影する意欲を失わず、むしろ意欲的に撮られていることが作品から伝わってきて、とても嬉しかったです。撮影時の心情まで写しこみ、花が語りかけてくるようなレベルの高い作品がたくさんあって、迷いに迷いながら審査をさせていただきました。ただ、花の種類に片寄りがみられたので、花の図鑑類や雑誌などを手がかりに、撮ってみたい花を新鮮な気持ちで選び、自分なりのイメージを膨らませるのも楽しいかもしれません。これまでご縁のなかった花との出会いは、「花の魅力の新発見」に通じるように思います。

たて・ひろみ（フォトアーティスト）　小学校、生涯学習施設、ミュージアムで写真ワークショップの講師を務めるなど写真芸術普及に携わる。

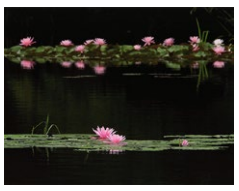
準特選

「花咲き山笑う」
高橋 一男（岩手県）

「陽春に咲く」
阿部 直美（山形県）

「霧中に咲く」
山本 健（茨城県）

「アマビエ様」
設楽 怜司（埼玉県）


「妖精たちの棲家」
須藤 康男（埼玉県）

「路傍の花」
住 由子（埼玉県）

「おもてなし」
又賀 義信（埼玉県）

「雨に咲く神秘の花」
入岡 一郎（千葉県）

「凛と咲く」
植竹 ヒロ子（千葉県）

「月光に映える」
當麻 政子（東京都）

「DEEPEST LOVE」
中村 常楽（東京都）

「６月の宝石」
藤本 郁乃（東京都）

「フェイス」
木村 文雄（新潟県）

「仲間達」
渡邉 隆（新潟県）

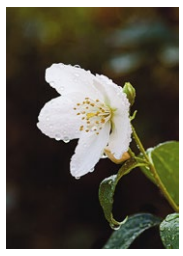
「汀（みぎわ）の彩（いろどり）」
渡辺 久子（新潟県）

「夏花パック」
藤沢 久子（山梨県）

「ラベンダーの丘」
池田 豊（長野県）

「雨あがり」
植木 勤（長野県）

「春に乱舞」
太田 美津子（長野県）


「母の好きな花 私の好きな花」
倉澤 由貴子（長野県）

「純粋無垢」
古賀 さつき（長野県）

「元気いっぱい！夏」
清水 清一（長野県）

「白く純潔 カサブランカ」
伊藤 秀夫（愛知県）

「春の贈り物」
片岡 將（愛知県）

「花車」
鈴木 宝王（三重県）

「ストロベリーキャンドルの丘」
芦田 千賀子（京都府）

「夢想」
西川 靖弘（大阪府）

「しなやか」
安原 佳苗（大阪府）

「誕生」
安達 彰（島根県）

「麗艶（れいえん）」
上村 裕子（岡山県）

「夏の贈り物」
角田 正治（岡山県）

「コデマリの詩」
道城 謙治（岡山県）

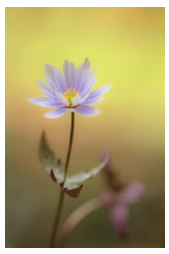
「山里の彩り」
太田 和子（高知県）

「花ぼんぼり」
雪本 信彰（高知県）

「春讃花」
永富 治子（福岡県）

「躍動」
矢頭 昭治（福岡県）

「紅化粧」
後藤 ゆかり（大分県）


「早春の妖精」
竹上 政夫（大分県）

「貴婦人」
河野 純一（鹿児島県）

「花の惑星」
山野 洋介（鹿児島県）

入選

※秋山庄太郎写真芸術館ホームページ（http://akiyama-shotaro.com）で作品をご覧いただけます

嶋谷 暁子	（北海道）	木村 一郎	（群馬県）	岡本 洋三	（東京都）	剣持 志津栄	（新潟県）	細田 浩	（愛知県）
松原 明美	（北海道）	今井 千穂	（埼玉県）	落合 俊哉	（東京都）	渡邉 幸雄	（新潟県）	松田 賢治	（三重県）
髙橋 一英	（宮城県）	大竹 章公	（埼玉県）	近藤 伸吾	（東京都）	室田 舜	（福井県）	木村 薫	（大阪府）
鈴木 博明	（山形県）	関口 晃	（埼玉県）	重田 和豊	（東京都）	齋藤 昌	（山梨県）	根来 一美	（大阪府）
矢田目 敏弘	（山形県）	西澤 政好	（埼玉県）	田所 俊一	（東京都）	島根 八重子	（長野県）	森川 紘	（大阪府）
歌川 敏美	（福島県）	吉村 洋	（埼玉県）	丹治 黎子	（東京都）	関川 秀孝	（長野県）	小寺澤 啓司	（兵庫県）
遠藤 清作	（福島県）	若林 弘勝	（埼玉県）	山崎 タキ子	（東京都）	岩澤 幸治	（静岡県）	柿本 哲宏	（鳥取県）
鈴木 達也	（福島県）	植松 護	（千葉県）	伊佐 浩一	（神奈川県）	勝又 勝	（静岡県）	筒井 由紀子	（高知県）
長野間 宏	（茨城県）	小野寺 恵一	（千葉県）	太田 有美子	（神奈川県）	高野 好史	（静岡県）	大西 展子	（福岡県）
佐藤 重昭	（栃木県）	丸山 孝男	（千葉県）	平山 勝太郎	（神奈川県）	山本 均	（静岡県）	原口 敦子	（福岡県）

審査委員寸評

小林 健三 「主役だけでなく背景にもこだわりを」

主役になる被写体の背景を工夫するのも撮影のたのしみのひとつです。背景紙や背景ボードは、どんな色にするかや、自然・街並み・人工物などを背景にする場合、絞りをどうするかもあります。絞りの数値が小さいほど背景はぼかした感じになります。しかし、背景にどんな役割をもたせるかによっても、ぼやかし方は変わります。もう少しこだわったら…と思う作品がありました。背景の活かし方が作品の持ち味を大きく左右するといっても過言ではないと思います。また、対象だけでなく全体を意識することでタイトル表現の幅も広がるでしょう。

こばやし・けんぞう（グラフィックデザイナー） 秋山庄太郎写真展や作品集のアートディレクション、秋山庄太郎写真芸術館の館内外デザインを担当。

鹿島 千香子 「花に寄せる思いをたいせつに」

今回の応募作品もとてもバリエーション豊かで、奥行きの深さも感じました。なかでも、室内で一所懸命に撮影されていることがうかがえる写真が多く、コロナ禍でも花を愛でる時間をたのしむことのたいせつさが伝わってきました。言葉では言い表せないほど個性が詰まった作品に数多く出会い、とても幸せな気持ちで審査をさせていただきました。秋山庄太郎写真芸術館のホームページで、秋山先生や私共の写真やメッセージをご紹介していますが、皆さまもお一人おひとりが花に寄せる思いをたいせつに撮っていただければと思います。次回もたのしみです。

かしま・ちかこ（フォトプロデューサー） 秋山庄太郎が創業した写真スタジオ「秋山写真工房」で秋山写真芸術を継承している。

上野 正人 「花の呟く物語に耳をすませながら」

「コロナ収束の願い」「秋山庄太郎生誕 100 年」などをコンセプトにしたと思われる作品に、心が通う思いがしました。ご高齢や十代の方からのご応募が増えたのも、今年の特徴の一つです。また、撮影スタイルの流行りや、多くの方が被写体に選ばれる花の種類にも毎年違いがあります。たくさんの方々が、同種類の花に、同様な感動をおぼえてシャッターを切るのは自然なことかもしれませんが、たとえば花が何か物語を呟いているかどうか耳をすませながら撮影するなかで、より個性的でさらに美しさが際立つ作品になっていくかもしれません。

うえの・まさと（キュレーター） 美術館学芸員を経て、秋山庄太郎写真芸術館館長。秋山庄太郎と本コンテストを創設し、企画・運営に携わる。

※審査委員の略歴は、秋山庄太郎写真芸術館ホームページ掲載「『花』写真NEW撮影スタイル＊ヒント集」のなかでもご紹介していますのでご覧ください。

〈主催〉
秋山庄太郎「花」写真コンテスト実行委員会

〈審査〉
秋山庄太郎「花」写真コンテスト審査委員会

〈協賛〉
カメラのキタムラ、秋山庄太郎写真芸術館
株式会社秋山写真工房、有限会社イマジン・アートプランニング、OMデジタルソリューションズ株式会社、キヤノンマーケティングジャパン株式会社、株式会社ケンコー・トキナー、株式会社スリーノーマン、ソニーマーケティング株式会社、株式会社第一印刷、株式会社ニコンイメージングジャパン、ハクバ写真産業株式会社、パナソニック コンシューマーマーケティング株式会社、富士フイルムイメージングシステムズ株式会社、リコーイメージング株式会社

〈後援〉
秋山庄太郎写真芸術協会、一般社団法人日本フォトコンテスト協会

〈運営協力〉
秋山庄太郎記念芸術文化振興協会

〈事務局〉
齋藤 智志　秋山 啓佑　中埜 淳子

《作品寄贈について》
前回（第 16 回）の秋山庄太郎「花」写真コンテストのグランプリ・特選作品は、秋山庄太郎額装作品とともに、下記に寄贈させていただきました。
淋代保育園（青森県三沢市）
特別養護老人ホームうらやす（宮城県名取市）

実行委員会より

代表 佐藤 卓（カメラのキタムラ）

新型コロナウイルスの影響のなか、撮影にさまざまな困難を感じられた方もいらっしゃったと思います。すばらしい作品を多数応募いただき、感謝致しますとともに、入賞された皆様にお祝い申し上げます。

※各賞中の作者・審査委員・企業・団体等の敬称は略し、それぞれ順不同で掲載させていただきました。

© 秋山庄太郎「花」写真コンテスト実行委員会